2019. 2
No.176

所報ふくしま 窓

「窓」に寄せる思い
～教育に寄せる心を開く小さな「窓」～
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

「ー温故知新ー」

研究・研修部長　味原　正美

平成の最後となる年を迎え、平成30年度も残すところわずかとなりました。今年度は特に、理科棟と宿泊棟の耐震改修工事のため例年と大きく異なる日程で研修を行いました。関係された教職員の皆様には、御協力をいただきありがとうございました。

当教育センターでの研究・研修業務の中で今年度における大きな出来事として三つのことをお伝えします。

まず、一つ目は「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を踏まえた現職教育計画のもとに研修が行われるようになったことです。この指標は、教員等が高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付けるべき資質を明確にしたものです。校内外とわず研修の度ごとに自らを省察しながら資質の向上を図る際の目安・道しるべとして使っていただきたいと思います。当センターは、今後も繰り返し指標の意義について伝えてまいります。

二つ目は、高等学校の新学習指導要領の公示及び新学習指導要領解説が公表され、小・中・高等学校のものが出そろいました。新学習指導要領の基本コンセプトは、児童生徒がこれからの社会の担い手となるために、質の高い知識や有用な技能を身に付けるとともに、それを働かせて様々な問題の解決を行う思考力、判断力、表現力等の能力の育成を重視した点です。それゆえ小・中・高等学校の学習指導要領は、各教科等をいわゆる資質・能力の「三つの柱」（①学びに向かう力・人間性の涵養②生きて働く知識・技能の習得③思考力・判断力・表現力等の育成）で再構築されています。このことは、小・中・高等学校の授業の目標が、校種や教科等の違いを超えて三つの資質・能力の育成で貫かれたことを意味しています。違いは各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるところですが、「この授業を通してどのような資質・能力を身に付けさせたか」という点においては、授業研究はどの校種や教科等でも行うことができることとなりました。これからの当センターの研究・研修においてもこの視点を生かしていきたいと考えています。

三つ目は、９月にWebサイトをリニューアルしたことです。研修の手引や要項のみならず、これまでの刊行物や学校支援等全体を見やすくいたしました。先行研究や研修資料、授業で活用できる教材等多くの情報を発信しています。是非ご覧いただきこれまで以上に当センターをご活用ください。

最後になりますが、この「所報ふくしま『窓』」も今回で176号を迎えました。昭和46年に福島県教育センターが発足して以来、「所報ふくしま」を年５回一度の休刊もなく発行し続けたことが、50号記念誌に書かれておりました。また、118号からは「所報ふくしま『窓』」として「『窓』に寄せる思い」を次のように伝えております。「教育に寄せる心を開く小さな『窓』、小さな『窓』から広がる教育の世界が見えてきます。」先輩方が創られたバックナンバーを読みながら、教職員の研究・研修は「不易の資質・能力」と「今後の時代に求められる資質・能力」をバランスよく取り入れながら、１年また１年と積み上げられ、磨き上げられるものなのだと感じることができました。まさに「温故知新」でした。先輩方の「思い」に感謝と誇りを感じながら、これからも「明日の福島の教育をつくる」を合い言葉に所員一丸となって職務に励んでまいりたいと考えています。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行：　福島県教育センター　〒９６０－０１０１　福島市瀬上町字五月田１６番地
TEL　０２４－５５３－３１４１（代表）　FAX　０２４－５５４－１５８８
URL　https://center.fcs.ed.jp/　E-mail　center@fcs.ed.jp

情報教育チームからの発信

総合的な学習の時間における情報モラル教育について

～平成 30 年度チーム研究より～

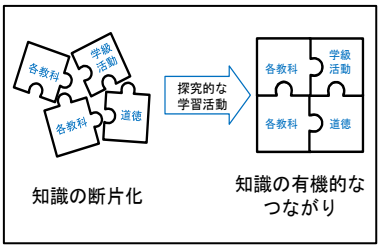
こんなお悩みありませんか？

情報モラル教育で

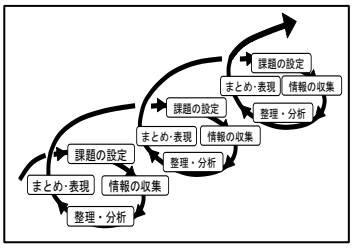
■総合的な学習の時間における情報モラル教育

「情報モラルを軸とした探究的な学習」

- ○探究的な学習となる単元構想
- ○自ら学び問題を解決していく、主体的な学習への転換
- ○断片化された知識の有機的なつながり



知識が有機的につながるイメージ



探究的な学習となる単元構想

「知識の定着と情報モラルの向上」

インターネット利用における行動判断には様々な知識が求められます。情報教育チームでは、「総合的な学習の時間での探究的な学習」が行動判断に求められる知識を定着させ、有機的なつながりをもたせることになり、生徒の行動変容に結び付くと考えました。

■研究協力校での実践

【１】 福島市立福島第四中学校の取組

「課題解決能力・発信力を高める総合的な学習」を主題に、総時数20時間で取り組みました。

(1) 課題の設定

■探究課題の設定

各学級で、情報モラルの講義やワークショップの内容を基に探究課題を設定しました。

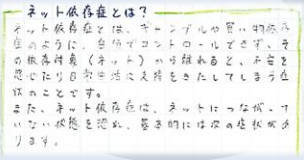
(2) 情報の収集

■中高連携事業

福島高校の生徒から調べ学習のポイントについてアドバイスを受けました。

■レポート制作（夏休みの課題）

情報モラル講座や高校生からのアドバイスを基に、探究課題についてレポートを制作しました。



(3) 整理・分析

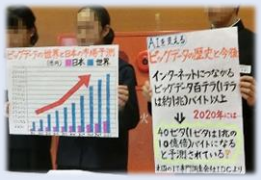
■フリップ制作

フリップは、グループでの協働学習を通して制作しました。生徒一人一人のレポートを持ち寄り、グループのテーマに沿ったフリップを制作しました。

(4) まとめ・表現

■情報モラル課題解決学習発表会

学区内の小学６年生を対象に、ポスターセッション形式で、学習の成果を発表しました。



【２】 石川町立石川中学校の取組

「総合的な学習の時間における情報モラルに関する学習」を主題に、教科横断的に取り組みました。情報モラルを軸に国語科、技術・家庭科、総合的な学習の時間を合わせて総時数23時間で取り組みました。

(1) 課題の設定

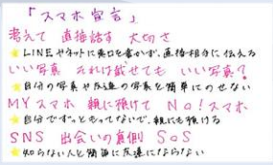
■探究課題の設定

各学級で情報モラルの講義やワークショップの内容を基に探究課題を設定しました。

(2) 情報の収集

■レポート制作（夏休みの課題）

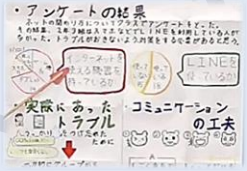
生徒は情報モラルの講座や調べ学習の内容を基に、レポートの制作に取り組みました。



(3) 整理・分析

■ポスター制作（教科横断的な取組）

技術分野の情報とコンピュータの単元において、コンピュータを活用して情報を収集しました。国語科では、ポスターセッションを扱う単元において情報モラルを題材とするポスターを制作し、発表練習も行いました。

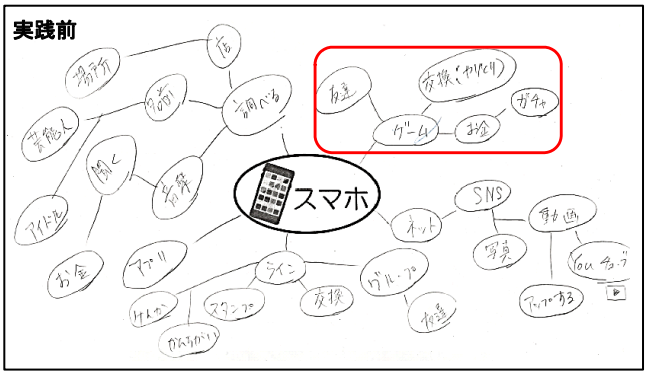


(4) まとめ・表現

■小学生のための情報モラル教室

技術分野や国語科での学習を基に、総合的な学習の時間の中で、学区内の小学６年生を対象にした情報モラル教室をポスターセッション形式で実施しました。

■イメージマップから見える生徒の変容



実践前は、「ゲーム」から派生している言葉が、友達、交換、お金、ガチャといった自分がゲームで普段やっていることについての記述となっています。実践後には同じ「ゲーム」から派生している言葉が、ゲーム障害、やりすぎ注意、不登校、引きこもり、日常生活の支障と、ゲームに関わる負の側面や自身の行動に関する記述に変化しており、断片的な知識が有機的につながったことが見取れました。

■研究協力校での実践を振り返って

情報モラルを総合的な学習の時間の探究課題に設定し、「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」まで、生徒自らが主体的に学ぶことができる単元構想を構築しました。この探究的な学習を通して、生徒のインターネット利用に関する知識の定着や、それに伴う行動変容を見取ることができ、総合的な学習の時間に情報モラルを探究課題に位置付ける効果が確認できました。

■今後の課題

今回の実践を継続して取り組むためには、変化の激しい情報社会の最新情報を入手し、生徒に新たな気付きを促す触発型の授業をいかに継続して行くかが課題となります。当センターとして、情報社会の最新情報を常に発信できるよう情報収集に努め、情報モラル教育に有益な情報を当センターのＷｅｂサイトを通じて発信していきます。

□■教育相談チームからの発信■□

「生徒指導上の諸課題に関する調査」結果から見えるもの

今回は、平成 29 年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）の結果から見える課題への対応について、児童生徒同士の「人間関係づくり」の視点から提案します。

◎生徒指導上の諸課題に関する県内と全国の状況（かっこ内は前年度）

いじめの認知件数		1,000 人当たりの認知件数
県内	4,883 （2,046）	24.3 （9.9）
全国	414,378 （323,143）	30.9 （23.8）

暴力行為の発生件数		1,000 人当たりの発生件数
県内	502 （414）	2.5 （2.0）
全国	63,325 （59,444）	4.8 （4.4）

不登校の小・中学生		1,000 人当たりの出現数
県内	1,885 （1,868）	13.2 （12.7）
全国	144,031 （133,683）	14.7 （13.5）

不登校の高校生		1,000 人当たりの出現数
県内	442 （485）	8.5 （9.1）
全国	49,643 （48,565）	15.1 （14.6）

A小学校
あさひ先生

県内のいじめの認知件数は 4,883 件。前年度の２倍を超えるのかぁ･･･。
「冷やかし、からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」といった言葉によるいじめが半数以上を占めているんだな･･･。

不登校者数は大きな課題だなぁ･･･。要因としては「いじめを除く友人関係」が小・中学生の約３割、高校生の約７割にもなるのか･･･。

全国の暴力行為の発生件数は過去最多。県内の暴力行為は 502 件、前年比 88 件も増えている･･･。

これらの状況は、子どもたちが不安や悩みを抱えたり、自身を肯定的に捉えられなかったりする現状に対するメッセージの表れであるとも考えられます。

教育相談チーム
かおる先生

学級は子どもたちにとっての学びの場であり生活の場です。
教育相談チームでは、安心・安全に学習、生活することができる環境と人間関係づくりが必要であると考えています。そこで、子どもたちの人間関係づくりをより適切に支援することができるようになることを目指した研究、研修を行っています。

□研修の紹介～「児童生徒の人間関係づくり」～

説明

- ○ 児童生徒を取り巻く社会の変化
- ○ 人間関係づくりの基礎・基本とその留意点
- ○ 学級における個人と集団の相乗性

演習

研修者は、「相手のことを考えて、他者と適切に関わることのできる技能を高めるためのスキルトレーニング」と「スキルを表現できる温かい人間関係を構築するためのグループワーク」を体験します。また、事例を基に「通常学級にいる気になる子について、個別・集団支援の点から日常的にできること」を話し合います。

◆演習内容

- ○「質問ジャンケン」　○「他己紹介」
- ○「みんなでキャッチ」○「トラストウォーク」
- ○「ある高校生の言葉」○「振り返り」
- ○「事例：相手の気持ちが分からない子」

受講後の振り返り

高等学校
まこと先生

目の前の子ども一人一人を丁寧に見ていくこと、今までの指導に発達段階の視点を加えることが大切なのですね。

児童生徒理解のための第一歩は、安心できる集団づくりです。安心できる環境や関係性があると、子どもたちはありのままの自分を出すことができることを再確認できました。

どの講座も児童生徒理解・支援など、先生方のスキルアップにつながる内容です。

教育相談チーム
ゆうき先生

特に、体験を通して理解を深める研修スタイルが好評です。

下記の専門研修で児童生徒の人間関係づくりについて学ぶことができます。

専門研修（教育相談系講座）

◆ 児童生徒理解に生かす学校教育相談基礎講座
- ○ 相談面接演習　○ 発達課題と児童生徒理解　など

◆ 児童生徒理解を深める学校教育相談実践講座
- ○ 児童生徒理解と学級集団理解　○ 保護者とのよりよい関係づくり　など

◆ 人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座
- ○ 校種共通のグループワーク　○ 校種別のグループワーク

□チーム研究の紹介 ～「よりよい人間関係を育む指導援助の在り方に関する研究-対話的な学びを充実させる学級集団づくりを通して-」～

◎校内研修「児童生徒のための人間関係づくりとよりよい集団づくり」

先生方が、子どもたちのよりよい人間関係を育む力を高めることを目指す研究をしています。

はじめに

◇ ウォーミングアップ

まず、先生方は「よりよい集団づくりチェックシート」を使い、自身の日常指導を振り返り、今後必要な指導・援助の在り方を確認します。

このチェックシートは、「約束の定着」「教師の姿勢」「よりよい人間関係づくり」の視点、「カウンセリング力」「ガイダンス力」の観点からよりよい人間関係を育むための工夫やこつを質問項目としてまとめたものになっています。

説明　よりよい人間関係を育む指導援助と対話について

◇ 学習や生活の基盤となる学級集団づくり
◇ カウンセリング力（個に応じた指導援助する力）とガイダンス力（集団に応じた指導援助する力）
◇ 対話的な学びを支える学級集団づくり
◇ 教育相談の三つの機能（①予防的②開発的③問題解決的　な教育相談）の確認

コアチーム

私たちが、先生方の思いや課題を検討・協議しながら、校内研修の内容や実施時期を決めていきました。

日ごろの取組が、「よりよい集団づくりチェックシート」に載っていたので自信をもって続けていこうと思います。

客観的に自分の指導内容を見直すことができたので、今後どのような指導・支援ができるかということが分かりました。

記入日　年　月　日

よりよい集団づくりチェックシート

立　　学校　氏名【　　】

視点	観点	要素	No.	質問内容	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
約束の定着	カウンセリング力	a	1	発達段階に応じた約束事を教えるために、個の実態を様々な方法で把握している。	4	3	2 1
		b	2	児童一人ひとりに約束事を身につけさせるために、個に応じた指導方針を持って児童に接している。	4	3	2 1
		c	3	教師や友達の話をよく聞くことができるように、話を聞く眼の姿勢や目線、心構えなどを指導している。	4	3	2 1
	ガイダンス力	d	4	いじめられたり、排除されたりする児童が出ないように、いじめは絶対許さないことを児童に話している。	4	3	2 1
		e	5	集会や学校行事などに対しては、目的意識をもって参加することができるように、その意義や参加時間などを事前に指導している。	4	3	2 1
		f	6	給食や清掃の時間は、ルールやマナー、役割を明確にするために、児童が公正・公平性を感じながら進めるようにしている。	4	3	2 1
		f	7	みんなで決めたきまりや約束を守るように指導している。	4	3	2 1
教師の姿勢	カウンセリング力	a	8	児童を自分の見方のみで理解するのではなく、アンケート調査や検査なども活用して客観的に理解している。	4	3	2 1
		a	9	児童を深く理解し気持ちに寄り添うために、声かけをしている。	4	3	2 1
		b	10	気になる言動を見聞きしたときには、それを見過ごさず、迅速に毅然とした対応をしている。	4	3	2 1
		c	11	児童が充実で自信が持てるように、机間指導の際に考えの良さを褒め、励ましてから発表させている。	4	3	2 1
	ガイダンス力	d	12	児童が友達のよさを認め合ったり認め合ったりするために、児童の何気ない優しい言動などを例にあげ、賞賛や感謝の気持ちを伝えている。	4	3	2 1
		e	13	学級のまとまりをもたせるために、ペアやグループでの活動を多くし、協力しなければできない課題を設定している。	4	3	2 1
		f	14	児童の集中力や量欲を高めるために、話を聞きたくなるような工夫（教師の演技やジェスチャー、児童とのやりとりなど）をしている。	4	3	2 1
よりよい人間関係づくり	カウンセリング力	a	15	児童の情報を把握することができるよう、問診と機会を見つけて話をしている。	4	3	2 1
		b	16	児童を褒める際に、結果を称賛するだけでなく、途中の努力や取り組みをその場で認め、伝えている。	4	3	2 1
		c	17	構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニングなどの手法を、個や集団の指導・援助に活用している。	4	3	2 1
	ガイダンス力	d	18	「学校は間違ってもいい所だ」ということを児童に示し、互いに意見を言い合える雰囲気づくりをしている。	4	3	2 1
		e	19	スローガンや目標などを学級で話題にするなど、児童が一丸となって諸活動に取り組むことができるように意欲・意識付けをしている。	4	3	2 1
		f	20	集団づくりやよい人間関係づくりなど、児童の指導の仕方について職員間などで話題にしたり、取り組んだりしている。	4	3	2 1
		ef	21	意欲的に話し合いのできる雰囲気にするためのコーディネートに心掛けている。	4	3	2 1
		def	22	困っている人がいるときには、進んで声をかけるように指導している。	4	3	2 1

演習　「よりよい人間関係づくりの手法」の体験的理解の一例

◇ 「他者と適切にかかわることのできる技能」を高めるためのスキルトレーニング

演習①「どうぞ」「ありがとう」
◆振り返らずに無言・片手でプリントを渡し、無言・片手でプリントを受け取る。
◆振り返って「どうぞ」と両手でプリントを渡し、「ありがとう」と両手でプリントを受け取る。

演習②「上手な話の聞き方」
◆ペアになり、「非傾聴」「傾聴」のパターンで相手の話を聴く。

◇ 「スキルを表現できる温かい人間関係」を構築するためのグループワーク

演習③「コロコロトーク」
◆さいころを振り、すごろくの要領で、止まったマスに書いてある題について話す。
◆グループ内で順番に行い、互いの話を共感的にうなづきながら聴き、対話をより促進させる。

受講後の振り返り

自分で実際にやってみて初めて気付いたこともあったわ。

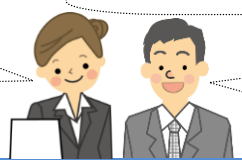
学級でも、ぜひやってみたい。

まとめ

◇ 振り返りで出た内容の共有と大切なことの確認

よりよい人間関係が対話的な学びを、対話的な学びがよりよい人間関係をつくっていくものなのね。

いじめや不登校などはすべての生徒に起きうるので、児童生徒一人一人の自分自身を表現する力とよりよい人間関係を結ぶ力を育成しましょう。



いじめや不登校の未然防止には、安心して通うことのできる学級集団があることが大切ですね。

社会の変化に伴い、児童生徒、保護者、教員が直面する課題は、ますます複雑化・多様化しています。教育相談チームでは、児童生徒理解をベースに、先生方の生徒指導・教育相談に関する児童生徒を支援する技能の向上に寄与したいと考えています。教育相談チームの研修、研究、出前講座をご活用ください。

長期研究員の研究紹介

当教育センターには14名の長期研究員がおり、学校教育の今日的課題について理論的・実践的な教育研究を行っています。高等学校籍の４名は１年間、小・中学校籍の10名は２年間の研究に励んでいます。先進的な取組の成果を県内の先生方の実践に活用していただけるよう、研究のポイントを紹介します。

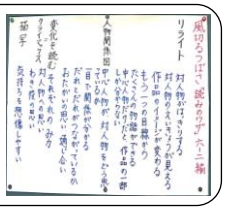
国語科

研究主題　（H29・H30）

「生きて働く読みの力」の育成を目指す文学的な文章の指導－「読み方」のリフレクションを取り入れた単元づくりを通して－

菅野　智香子（二本松市立杉田小学校）

意図的に「読み方」を活用する場を位置付ける単元づくりを通して、児童が文学的な文章を読む楽しさにふれながら、「読み方」の有用性を実感できる授業の在り方を追究しました。



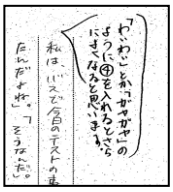
国語科

研究主題　（H29・H30）

豊かな言語感覚を育む「書くこと」領域における学習指導－「視点」を基に相互に検討する学習を通して－

渡邉　潤平（只見町立只見中学校）

自分のイメージが読み手により正確に伝わる表現となるためにはどうすればよいか。相互に検討し吟味する活動を通して、豊かな言語感覚の育成を目指しました。



国語科

研究主題　（H30）

文章の構成に対する意識を高め、内容を的確に読み取る力の育成－段落相互の関係を意識させる要約指導の工夫－

本間　郁（福島県立郡山北工業高等学校）

対話的な活動を通して評論文の各段落を要約したり、段落相互の関係を可視化したりして、文章構成に対する意識を高め、内容を的確に読み取る力を育成する実践に取り組みました。

社会科

研究主題　（H29・H30）

社会科における子どもの社会参加のための資質・能力の基礎を育む授業づくり－「専門家コミュニティ」との関わりを生かした問題解決を通して－

渡邉　匡彦（会津若松市立永和小学校）

学習内容に関連する専門家と関わりながら、地域の問題を解決するための提案・実践する学習活動を通して、社会参加に必要と考える資質・能力の基礎の育成を目指しました。

算数科

研究主題　（H30・H31）

問題解決に向けて学び続ける児童を育む算数科授業づくり－学びを自覚する振り返りを生かして－

大河　真司（二本松市立二本松南小学校）

自分の考えを確かめたり思い起こしたりする振り返りの場面を学習過程の途中や終末に位置付け、学び続ける児童を育成する授業実践に取り組んでいます。

数学科

研究主題　（H29・H30）

問題解決の過程において、思考力を育む学習指導の在り方－数学科における根拠を見いだす活動の工夫を通して－

森　康隆（須賀川市立長沼中学校）

解答に至る根拠を示しながら説明する活動を設定し、生徒が既習事項とのつながりを見いだしたり、筋道立てて説明したりするための支援ツールを用いて、数学的な思考力の育成を目指しました。

紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては、「平成30年度研究紀要第48集」を御覧ください。当センターのWebサイトから御覧いただくことができます。

https://center.fcs.ed.jp/

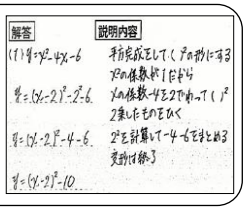
数学科

研究主題　（H30）

数学的活動を通して論理的な思考を育成する学習指導の在り方－筋道を立てて説明し合う活動を通して－

宗形　聡（福島県立岩瀬農業高等学校）

解答における計算のアルゴリズムや解法の手順を文章化し、筋道立てて解答を説明し合うことで、問題解決の過程を振り返り、論理的な思考を育成する研究を行いました。



理　科

研究主題　（H29・H30）

主体的な問題解決による「深い学び」ができる児童の育成－考察の場面における、振り返りとより妥当な考えをつくりだす工夫を通して－

藤井　宏（西郷村立小田倉小学校）

結果を見通して実験を構想したり、考察で問題解決の過程を振り返って考えたりすることによって、「深い学び」の実現につながると考え実践しました。

理　科

研究主題　（H29・H30）

学習内容の深い理解を促す中学校理科の授業－生徒が理解の深まりを実感できる学習活動の工夫－

志賀　匡行（いわき市立小名浜第一中学校）

パフォーマンス課題や思考場面を分割したノートづくりを行い、日常生活との関連性や自らの思考過程を意識することで、知識を体系的にとらえる力の育成を目指しました。

英語科

研究主題　（H30・H31）

即興で話すこと［やり取り］の力を育成する指導の在り方－コミュニケーションストラテジーを取り入れた学習活動の工夫－

鈴木　淳子（白河市立白河中央中学校）

自分のことを伝えられる話し手と、相手のことを理解しようとする聞き手を育成し、互いに会話を継続・発展させながら即興でやり取りする力の育成を目指しています。

英語科

研究主題　（H30）

書く英文の正確性を向上させる学習指導の在り方－ピア・レスポンスのよさを生かしたエッセイ・ライティング活動を通して－

大須賀　心綾（福島県立安積高等学校）

生徒同士の相互添削活動であるピア・レスポンスを取り入れ、エッセイを書く総合力だけでなく、書く英文の正確性向上を目指し、授業実践を行いました。

教育相談

研究主題　（H29・H30）

児童一人一人に社会性を育み、「よりよい集団」をつくる指導の在り方－「協働」を目指す、情動を踏まえた社会的スキルの指導を通して－

徳永　一夢（いわき市立泉北小学校）

行動と感情の関連を踏まえた個人の社会的スキルを高める指導援助を行うことで、多様な感じ方や考え方をもつ他者と協働する児童の姿を目指しました。

教育相談

研究主題　（H30）

自分の気持ちとうまく付き合いながら人間関係を育む指導の在り方－ストレスマネジメント教育を通して－

森藤　文葉（福島県立湯本高等学校）

自己のストレスとの付き合い方やストレスを視点とした他者との関わり方を身に付けることで、よりよい人間関係を育むことができるよう指導援助を行いました。

情報教育

研究主題　（H29・H30）

プログラミング的思考を育成する授業の在り方－言語化による再現性を重視したプログラミング体験を通して－

加藤　政記（平田村立蓬田小学校）

コンピュテーショナル・シンキングの概念である五つの能力を、プログラミング的思考に求められる力ととらえ、各教科等の指導を通じてプログラミング的思考の育成を目指しました。

※　所属校は、平成31年３月現在のものです。

平成30年度　福島県教育研究発表会

「明日の福島の教育をつくる」をスローガンに、福島県教育研究発表会が11月29日(木)に当センターにおいて開催されました。

県内の小・中・高等学校における優れた研究実践や当センターチーム研究及び長期研究員による研究、合わせて18の研究発表が行われました。また、「『深い学び』を生み出す授業づくりと学習評価」の演題で、早稲田大学教職大学院　教授　田中　博之　氏の御講演が行われました。

おかげさまで、御来賓を含め約200名の皆様に御参加いただき、無事終了することができました。御後援をいただきました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会、御臨席を賜りました来賓の皆様、そして、御参加いただきました県内外の教職員及び学生の皆様に、厚くお礼申し上げます。来年度も実り多き研究発表会となるように準備を進めております。ぜひ多くの皆様の御参加をお待ちしております。

○　各発表の概要・要旨を当センターWeb サイトに掲載いたしました。是非ご覧ください。

○　来年度の予定は次のとおりです。

日　時：2019年11月28日（木）　９時50分～

内　容：各種研究発表及び講演

来年度の研修講座から

小学校基本研修で外国語活動の研修を拡充しました

新学習指導要領では、小学校３年生から「聞く・話す」中心の外国語活動を導入し、小学校５年生から「読む・書く」を加えた外国語を、教科として学習することとしました。その移行期間として、平成30年度から「総合的な学習の時間」の一部を外国語活動・外国語科に振り替えることが可能となり、３、４年生の外国語活動が始まるとともに、５、６年生は外国語活動に加えて、外国語科の内容を扱うこととなりました。

そのため当センターでも研修内容の一部を見直し、今年度から小学校の各基本研修に講義「外国語活動・外国語の授業」を位置付け、先生方の英語指導力の一層の向上を目指しています。

以下のとおり専門研修講座でも「小学校外国語活動・外国語科講座」を開講しています。基本研修の対象となっていない先生方については、当センター専門研修の受講をお勧めいたします。

専門研修講座にぜひお越しください

当センターでは、学校現場における先生方の授業力向上や様々な教育課題への対応に役立つ専門研修を行っています。専門研修は希望制で、当センターまでの旅費は各学校の旅費とは別途に確保されています。

来年度は、教科教育系(34講座)・教育相談系(３講座)・情報教育系(７講座)・教科外教育系(５講座)の全49講座を予定しております。なお、新規に「**ＩＣＴを活用した保健体育科の授業づくり講座**」「**技術科を担当する先生のためのプログラミング講座**」「**実践的・体験的な学習の充実を図るための家庭科講座（高齢者との関わりと福祉編）**」「**中学校『特別の教科　道徳』の授業づくり講座**」の４講座を開講いたします。また、「小学校外国語活動・外国語科講座」等新学習指導要領を踏まえた講座や、「ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座」等喫緊の課題について研修する講座もございます。是非お越しください。

福島県教育センターからのお知らせ

本年度は、当センターの理科棟、宿泊棟の耐震改修工事が行われました。そのため、一部の研修については昨年までと大きく異なる日程で実施いたしました。

また、当センター西側の河川改修により、当センターの駐車スペースとして使わせていただいていた河川敷地が使用できなくなりました。来年度以降もこれまでと比べ駐車可能台数が少なくなりますので、乗り合わせや公共交通機関の利用に御協力ください。